

【丸本】

戯曲『マクベス』にでてくる「晴れ晴れしいなら禍々しい、禍々しいなら晴れ晴れしい」という言葉は何を意味しているのか説明しなさい。

戯曲『マクベス』的一幕一場の「晴れ晴れしいなら禍々しい、禍々しいなら晴れ晴れしい」(10) という言葉は、四幕一場の中でどんなことにも良い面と悪い面があることを表している。この言葉は英語では「Fair is foul, and foul is fair.」となり、プラスの意味の fair と、マイナスの意味の foul が使われている。直訳すれば良いは悪い、悪いは良い、となる。よって魔女の予言は良い意味にもなれば悪い意味になる、という事を示している。

まず、第一の幻影はマクベスを不安な気持ちにさせる。マクベスは、第一の幻影に一つ目の予言をされる。第一の幻影は「気を付けよ、マクダフに、ファイフの領主に。」(120) と言った。マクベスはすでにマクダフを「怖れ」(120) ていたので、予言を聞いて不安になった。これは foul である。一方でマルコムとマクダフにとっては、fair であった。彼らは「固く結び」(144)、シーワードが率いる軍に加わることを決めた。スコットランドに出陣し、マクベスを殺そうとしていた。ゆえに、マルコムとマクダフにとって第一の幻影が言った予言は、戦いにおいて自分たちは優勢であることを意味したのだ。

しかし、第二の幻影はマクベスに自分の栄光は揺るがないと思わせた。マクベスは、第二の幻影に二つ目の予言をさせる。第二の幻影は「女から生まれた者が、マクベスを傷つけることは断じてない」(121) と言った。普通に考えると、女から生まれてきていない人間は存在しない。それゆえ、この世の者は誰もマクベスを傷つけないことになる。だからマクベスはこの予言を聞いて、マクダフを「生かしてはおけぬ」(122) とは思ったものの、誰からも殺されないと思い、安心した。彼によって第二の幻影が言った予言は fair である。しかし、実際は、マクダフは女から生まれた者ではなかった。マクダフは「産み月前に母親の腹を切りさいてこの世に生まれ出てきた男」(181) であった。ゆえに、マクダフはマクベスを殺すことができた。よって、結果から見れば foul となった。

さらに、第三の幻影は、マクベスに自分は無敵だと思わせた。マクベスは、第三の幻影に三つ目の予言をされる。第三の幻影は、「マクベスはけっして敗れることはない、かの大いなるバーナムの森が、けわしいダンシネインの丘に攻め登ってくるまでは。」(122) と言った。常識的に、森が丘を登ってくることはありえない。それゆえマクベスは、自分の王座を奪われることはなく、「天の定めた寿命を生き抜き、与えられた命の限りを生きつく」(123) せると考えた。つまり、第三の幻影の予言は fair だと考えられた。しかし、実際にバーナムの森は攻め寄せてきた。マルコムは兵士に「一本の枝を切り取り、頭上にかざして進軍する」(169) ことを命令した。その結果、「バーナムの森がダンシネインに押し寄せている」(174) ように見えた。よってマクベスにとって結果は foul となった。

マクベスは、魔女の予言によってマクダフを怖れるが、自分は無敵であり栄光は揺るがないことを確信した。しかし、結果はマクダフに殺されてしまう。四幕一場において「晴れ晴れしいなら禍々しい、禍々しいなら晴れ晴れしい」という言葉は、良い事が起これば悪い事が起こる事、そして誰かによって良い事は他の誰かにとっては悪い事であることを表している。